

早期米 出穂から収穫期管理

～収穫までの水管理・病害虫防除を徹底しよう！！～

1. 生育状況

本年の早期米については、田植後天候に恵まれ、気温・日照時間共に高く、生育旺盛となり、茎数は十分に確保できています。コシヒカリの出穂については、早い圃場で7月10日頃からの出穂となり、生育速度は平年並となっています。生育時期に合わせた管理を徹底しましょう。

今後は収穫までの水管理が収量・品質に影響を与えるため、適切な水管理を心がけましょう。

2. 水管理

穂揃い期後の水管理は間断灌水が基本になりますが、中干しが十分に出来ていない場合は、出穂後定期的に干しながら収穫までの水管理を行いましょう！気温が高くなっているため、水がある場所は夜間の水のかけ流しを実施し、収穫7日前には走水を実施しましょう。

また、台風が接近する時などの強風時は葉先の乾燥、裂傷等を防ぐため、必ず深水管理を行う！！

3. 病害虫防除

【いもち病】

曇雨天が続き、平均気温24度で発生が多くなります。病斑が見える圃場は必ず防除を行ってください。

「薬剤」	コルター2号F粉剤DL	「使用量」	3～4kg/反
または「薬剤」	ノンプラスフロアブル	「使用量」	1000倍 1000/反
特栽米「薬剤」	トライフロアブル	「使用量」	1000倍 1000/反

【紋枯病】

毎年、紋枯病が発生している圃場では、今年も発生しますので必ず防除を行いましょう。また今後、気温が上昇すれば紋枯病発生の被害が拡大しますので、現在発生していない圃場でも注意が必要です。

「薬剤」	コルター2号F粉剤DL	「使用量」	3～4kg/反
または「薬剤」	バリダシン液剤	「使用量」	1000倍 1000/反

【カメムシ】

毎年発生しているカメムシですが、今年も多発が予想されます。近年、品質低下の1番の原因となっております。必ず下記の通り防除を徹底しましょう。

- ① 雑草の穂が出穂する前に畦畔の草刈りを行うことが重要。
- ② 出穂14日後（乳熟期）頃に
キラップ粉剤3～4kg/反 または キラップフロアブル1000～2000倍/反を使用し防除しましょう。
目安としては、穂がくるぶいた頃が適期となります。

※ 農薬散布の際は、使用基準を遵守し周辺作物へ飛散がないよう注意してください。

※ 栽培履歴の記帳を忘れずに収穫前に必ず提出しましょう！！